



名古屋柳城短期大学

ちやべるにゅーす

第23号 (クリスマス号)

2012年12月19日

『今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。』(ルカによる福音書2章11節~12節)

主イエス・キリストの誕生を祝うクリスマスが近づいて来ました。クリスマスは世界中の至るところで祝われていますが、最初のクリスマスは現在のように大々的に祝われたものではありませんでした。最初のクリスマスは大変小さな出来事でした。

ルカによる福音書が伝える最初のクリスマスの出来事は、夜、羊の番をしていた羊飼いだけに知らされたというものでし

た。当時の世界はローマ帝国によって治められていました。ローマ皇帝はアウグストゥスと言い、強大な力を持った皇帝でした。イエス様はその時代にイスラエルのベツレヘムという小さな町でお生まれになりました。ローマ帝国という大帝国から見たらベツレヘムは名もない田舎町でした。しかし、神様は救い主イエス様を、そのような誰も気にも留めなような所で生まれさせられたのです。神様の真理は大きなものの中よりも小さなものの中にあるということを言おうとしているようにも思えます。

イエス様の誕生は天使たちによって羊飼いたちに伝えられました。しかも、天使は「布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み

子が救い主のしるしである」と言うのです。「飼葉桶」のあるところは家畜小屋です。と言うことは、救い主は家畜小屋で生まれ、しかも、布にくるまって飼葉桶の中に寝ているということなのでしょう。そんなことが信じられるでしょうか。

しかし、羊飼いたちはとにかく天使たちの言葉を信じて、ベツレヘムに出かけて行きました。そして、天使が言ったように飼葉桶に寝ている赤ちゃんのイエス様を探しあてたのです。マリアとヨセフを別にして、羊飼いたちが世界で初めて救い主である赤ちゃんのイエス様に出会ったのです。世界で最初にク

リスマスをお祝いした人たちがであったと言ってもいいでしょう。

「布にくるまって寝ている赤ちゃん」は救い主のし

るしとしては大変小さなしるしです。誰が見てもすぐにそれと分かるしるしではありません。天使の言うこと一つまり、神様のみ言葉一を信じなければ決して分からないしるしなのです。羊飼いたちは天使の言葉を信じたからこそ赤ちゃんのイエス様にお会いできたのです。

この小さなしるしにこそクリスマスの意味が隠されています。神様は小さな町の小さな家畜小屋で、小さな飼葉桶の中に小さな赤ちゃんのイエス様を生まれさせられました。それが救い主イエス・キリストでした。クリスマスはこの世界で起こっている小さな出来事の中に実は神様の大きな業が潜んでいるということを思い巡らす時なのです。

「小さなしるし！」

理事長 主教 ペテロ 渋澤一郎



クリスマス展から～降誕人形のいろいろ～

キリスト教センター 尾上 明子

柳城のクリスマス展は、第1回を2000年に開催し今年で14年目を迎えます。当時は、改装された広々とした歴史資料室（3号館は現在ありません）で少数の展示をしましたが、2回目からはささやかでも地域の方々にも公開しようのご案内しました。3年目には近くの保育園や幼稚園関係者、地域の方々など毎年楽しみに見に来てくださる1000人に近い方々が名簿に記帳してくださっています。そのようにして毎年少しずつ増やしてきた展示物の中から、今回は降誕人形のいくつかをご紹介します。尚、このクリスマス展は、日本玩具博物館〈姫路市〉のご指導とご協力によって、今日に至りましたことを感謝をもって申し添えたいと思います。

さて、クリスマスは多くの国でお祝いされていますが、特にヨーロッパでは、アドベントの期間（降臨節：クリスマスを待ち望む期間）降誕人形を飾り、キリストの誕生を想起起こします。起源は、イタリア・アッシジのフランチェスコ（1182-1226）という中世の有名な聖人が始めたと言われていますが、私は、一昨年、聖フランチェスコゆかりの地を旅したとき、世界中の降誕人形が集められ展示されている教会を見てきました。フランチェスコは、印刷術もなく聖書を持つこと自体、叶わなかった当時の人々に聖書に語られている降誕物語が目に見える形で伝えようとしたのです。ですから、今も、特にカトリックの世界では、等身大のマリアやヨセフ、赤ちゃんイエスを拝みにきた羊飼いたちと東方の博士たちを教会や町の一角に置くという習慣があります。時代とともに、手造りの小さなお人形としてヨーロッパ各国で造られるようになりました。今日では、南米やアフリカ、

アジアなど様々な国でも造られ、民族やその国の雰囲気醸し出されているものが多くなりました。そのような起源を持つ降誕人形は、イギリスではクリブ、ドイツではクリッペ（クリブ）、イタリアではプレゼピオ、スペインではナシミアントやベレン、フランスではクレシュなどと呼ばれています。それらを見ていると、一つひとつが心を込めて造られた手造りであることから、クリスマスの喜びがひとしお大きくなっていくのです。2000年前の出来事から明らかなことは、彼ら（ヨセフとマリア）には泊まる場所が無かったということです。救い主として生まれたイエスは、考古学的な検証によると洞窟を利用した家で生まれた可能性が高いということです。一般的には、「飼い葉おけに寝かせられた」と聖書にあることから、馬小屋として描かれていることが多く降誕の人形たちも馬小屋のなかに並べられることがほとんどです。しかし実際は、自然洞窟で1階は家畜のスペース、上の段が人間が過ごすスペースで、それは冬には家畜の体温で暖かかったようなのです。実は今でも、そのような生活をしている人々がこの地方にいるのです。どちらににしても、決して清潔で恵まれた環境ではなかった、むしろ最低限度としか言いようのない状況だったことでしょう。遠い2000年前のそのような情景を思い描くことによって果てしないファンタジーが広がります。今や世界中の人々に知られているクリスマス、しかし、その中心人物であるみ子イエスが、最も貧しい形で私たちのところに来られたということは、どのような意味を持つのでしょうか？み子イエスは、私たち人間への神からの最高の贈り物なのです。



①フランスのクレージュ(ベツレヘム修道院作)

乳白色のドロミー堆積岩で造られており、修道会のシスターたちが祈りを込めて製作したものです。マリアが幼子イエスに添い寝している姿は、他では見られないものです。



②スペインのベレン(女性陶芸家ペリスの作品)

一つひとつ手造りしているなので、一つとして同じものはありません。土を焼いていますので、ずっしりとして味わい深い作品です。



③イタリアのプレゼピオ(硬質プラスチック製)

日本玩具博物館より寄贈されたものですが、

子どもたちがクリスマスの生誕劇をしているようです。



④イタリアのプレゼピオ(木と硬質プラスチック製)

細かく繊細で様々な生き物が登場しています。カラスやあひる・はとなどとても楽しいです。



⑤日本の砂土原人形(窯元：坂本兼次製作)

宮崎県宮崎市にある江戸時代から続く土人形です。九州ということで、隠れキリシタンを彷彿とさせる素朴な土人形。昨年、日本玩具博物館のご紹介で入手しました。





平常礼拝から「幼稚園教諭5年目の私」

三好丘聖マーガレット幼稚園 村上絵里先生



私は、三好丘聖マーガレット幼稚園（以下、聖マーガレット幼稚園とする）に勤め、5年目になります。聖マーガレット幼稚園は、全園児を全教職員で保育していくという方針で、たとえ担当が違っていても、皆で子どもたちに声を掛け合い、子どもたちの顔を覚えていますので、ほとんどの子どもが全職員の顔を覚えています。ですから、大きな一つの家のような雰囲気子どもたちも、毎日ニコニコ顔で登園してきます。

一日は、15分間の短い礼拝から始まります。聖書の箇所を順番に読み、その中で感じたことを皆で話し合い、ひとつのことに想いを巡らせて考えてみるという貴重な時間が設けられていて、私自身、毎日勉強になることがたくさんあります。何か迷った時、ひとりで悩んだりしがちですが、そうではなく、いつも自分のそばには、神様がいてくださり、どんな試練もそれは、意味があつて、乗り越えれば、きっとそれは強さに変わり、成長させてくださるということを感じます。一年目の頃は、何もかも初めてで、新しい環境で果たして上手くやっていくことができるのだろうか？子どもたちは、先生として自分についてきてくれるのだろうか？などなどいろんな不安がありました。保育をしていく中でも、分からな

いことだらけで、質問したいけれど上手く言葉が出てこなかったりしました。周りの先輩の先生の保育を「すごいなあ！」と感心する反面、自分のできないことを不甲斐なく思い消極的になってしまったこともありました。でも、どんな時も支えになったのは、親身になって相談に乗ってくださり良い方法を一緒に考え共に歩んでくださった先生方でした。そして、何より毎日顔を見せてくれる子どもの無邪気な笑顔に支えられ、助けられたことが何度となくありました。こんな温かく素敵な先生方・子どもたちに囲まれて保育できることは、本当に幸せことだと思います。

また、この職業の魅力は、毎日が同じ繰り返しではなく、毎日が新しい発見と、子どもの違った一面を垣間見たり、成長を共に感じ喜び合えることだと思います。今年は、年少組23名を受け持っていますが、去年は年中組を持っていました。入園から現在までの過程を振り返ってみると、親のようにしみじみと成長を感じ嬉しく思います。母親と離れられず大声で泣いていた子が「ここでバイバイ。門で見てて！」とりりしい顔つきで部屋まで来たり、ぶらさがるだけしか出来なかった^{うんてい}雲鄭を最後まで軽々とこなしてしまうようになつたり、怒りっぽくすぐにお友だちに手が出てしまっていた子どもが、他の子がけんかしているのを見つけ「けんかしないで！」と止めていたり、このような目に見える成長に驚かせられます。これからは、目に見える成長だけでなく、心の中の目に見えない成長も感じ、捉えていくことが出来るように心がけていきたいと思っています。

創立114周年記念礼拝

11月1日(木)に創立114周年記念礼拝が行われました。創立記念礼拝とその関連行事を多くの写真とともに振り返ってみたいと思います。

第1部では、礼拝の前奏・後奏として野々垣ゼミの学生によるハンドベルの演奏が行われ、田中誠チャプレンの司式の下、創立記念礼拝を執り行いました。式典のなかでは、渋澤一郎理事長の祝辞、新海英行学長の式辞が述べられ、豊田幼稚園の前崎主任、種市教務課長、池田理事、荻原教授への永年勤続者表彰も行われました。



創立記念礼拝(第1部)



野々垣ゼミによるハンドベル演奏

第2部では、「卒業生が語る学生生活」と題して、柳城幼稚園の織田純代主任、聖マーガレット幼稚園の平松ちづ代園長、豊田幼稚園の岡野尚子園長に学生時代の思い出に残っている講義のお話、当時の柳城の学校や学校周辺の様子、学校行事などについて、先生方の当時の写真を体育館のスクリーンいっぱい投影して、スライドショーで拝見しながらお話していただきました。特に織田主任と岡野園長は同級生ということもあり、お二人で話し合ううちに当時を思い出しながら、さまざま

まなお話をしていただきました。また、司会・進行役として保育専攻1年生の土屋理沙さんと堀場脩司さんの2名が務め、先生方に学生を代表して質問していただきました。在学生にとっても楽しくひと昔前の柳城の様子がわかる機会になったのではないかと思います。



附属園の園長・主任による学生時代のお話

墓地礼拝

午後からは、名古屋市八事霊園にある日本聖公会中部教区の共同墓地まで赴いて、ヤング先生をはじめとする柳城学院関係者の墓地礼拝を執り行いました。また、ヤング先生の亡くなった春先に満開になるように、尾上明子先生をはじめとして学生の有志によりお墓の周囲にスイセンやチューリップなどの球根を植えました。



墓地礼拝の様子



ヤング先生のお墓の前で

中部教区成立100周年記念

夕の礼拝 (10月7日)

および

記念礼拝 (10月8日)

中部教区と本学は、カナダ聖公会と深い繋がりがあり今日に至っています。

実は、中部教区が成立する以前137年前に新潟に伝道が始まり、本学とも深い繋がりのあるロビンソン師が1888 (明治21) 年に名古屋に来られています。本学創設者ヤング先生は、1895 (明治28) 年にこの地に来られました。教区は1912年 (明治45・大正元) 年に成立しましたので、今年で丁度100年ということになります。

そのお祝いのために、カナダ聖公会首座主教フレデリック・ヒルツ師とフィーリー大執事、大韓聖公会金根祥(きむぐんさん)主教、フィリピン聖公会ジョエル・パチャオ主教などが来日され、多くの参加者とともに感謝と讃美のひとときを持ちました。当日に先立ち、カナダの主教方は、東日本の被災地を訪問され、現状を知るとともにそこでの多く人々との出会いより深い感銘を受けられたようです。詳細は、「いっしょに歩こう！プロジェクト」会報16号、中部教区「ともしび」に掲載されています。

さて、この記念礼拝 (夕の礼拝) に本学の学生たちも参加し、ローソクや旗を掲げる重要な役割を果たしてくれました。また、裏方として、様々な形で学生が奉仕をしてこのお祝いを共に過ごせたことは本当に感謝でした。あらためて私たちは、本学の創設に多くのカナダの宣教師がかかわり、支援を惜しみなく捧げてくださったことを思い起こす時にいたしましょう!!



「クリスマス展開催中」

12月2日 (日) ~ 2013年1月11日 (金)
名古屋聖マタイ教会礼拝堂および本学図書館
(宗教委員会・図書委員会共催)

「世界のクリスマスと絵本展」が只今名古屋聖マタイ教会礼拝堂と本学図書館にて開催されています。毎年少しずつ増やしてきた本学の展示は、クリスマスをお祝いする様々な国の文化や伝統が可愛い人形たちに表現されています。どうぞ、お楽しみください!! 保育を学んでいる皆さんは、様々な手造り装飾なども参考にしてみましょう!!



今年のクリスマス献金先

- ❖ 東日本大震災支援 (日本聖公会「いっしょに歩こう！プロジェクト」を通して。
- ❖ アジア保健研修財団
- ❖ 岐阜アソシア
- ❖ 笹島キリスト教連絡会 (ホームレス支援)
- ❖ 国際子ども学校 (在日外国人の子ども支援)
- ❖ 日本聖公会保育連盟、キリスト教保育連盟
- ❖ 中部教区センター、ひだまりの里 他。

2012年12月19日発行 第23号

発行所 名古屋柳城短期大学
名古屋市昭和区明月町2-54

編集兼
発行者 名古屋柳城短期大学 宗教委員会
印刷所 株式会社 マルワ